


一枚起請文



2024年11月29日にウィキソースから書き出されました。

一枚起請文
作者：[法然](#)
1212年

- 注：編者  [姉妹プロジェクト](#)：[Wikipediaの記事](#), [データ項目](#)
- 注によれば 黒谷金戒光明寺にある原本を写したもの
- 書誌情報：『法然上人全集』源空 著 黒田真洞、望月信亨 共編（宗粋社 1906年）
- 底本：源空 著 ほか『法然上人全集』,宗粋社,1906. [国立国会図書館デジタルコレクション:info:ndljp/pid/991644/1/221](#) p.422

原文

もろこし我がてうにもろく の智者達のさたし申さるゝ
觀念の念ニモ非ズ。又學文をして念の心を悟リテ申念佛ニモ非ズ。たゞ往生極樂のタメニハ南無阿彌陀佛と申て疑なく往生スルゾト思とりテ申外ニハ別ノ子さい候はず。但三心四修と申事ノ候ハ皆決定して南無阿彌陀佛にて往生スルゾト思フ内ニ籠り候也。此外におくふかき事を存ゼバニ尊ノあはれみニハツレ本願にもれ候べし。念佛を信ゼン人ハたとひ一代ノ法を能々學ストモ。一文不知ノ愚どんの身ニナシテ。尼入道ノ無ちノともがらに同して。ちシャノふるまいヲせずして。只一かうに念佛すべし。

爲證以兩手印

浄土宗の安心起行此一紙二至極せり。源空が所存此外二全ク別義を存ぜズ。滅後ノ邪義ヲふせがんが爲メニ所存を記し畢。

建歴二年正月二十三日

源空在判

読みくだし例（参考）

もろこし我が朝にもろもろの知者たちの沙汰し申さるる観念の念にもあらず。また学問をして念の心を悟りて申す念仏にもあらず。ただ往生極楽のためには、南無阿弥陀仏と申して疑いなく往生するぞと思いとりて申すほかには、別の子細そうらわず。但し、三心四修と申す事のそうろうは 皆決定して、南無阿弥陀仏にて往生するぞと思う内にこもりそうろうなり。このほかに奥深きことを存ぜば二尊のあわれみにはずれ、本願にもれそうろうべし。念仏を信ぜん人はたとい一代の法をよくよく学すとも、一文不知の愚鈍の身になして、尼入道の無知のともがらにおなじゅうして、知者のふるまいをせずして、ただ一向に念仏すべし。

証のために両手印をもってす

建歴二年正月二十三日

源空在判

浄土宗の安心起行この一紙に至極せり。源空が所存このほかにまったく別義を存ぜず。滅後の邪義をふせがんがために、所存を記しおわんぬ。

注：常用漢字、現代かなづかいを使用。また、かたかな部分をひらがなになおす、漢字をかなに改めるなど、読みやすい形にしたものを参考までにあげた。

この著作物は、[環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定](#)の発効日（2018年12月30日）の時点で著作者（共同著作物にあっては、最終に死亡した著作者）の没後（団体著作物にあっては公表後又は創作後）50年以上経過しているため、日本において[パブリックドメイン](#)の状態にあります。



この著作物は、1929年1月1日より前に発行された（もしくは[アメリカ合衆国著作権局](#)に登録された）ため、[アメリカ合衆国](#)において[パブリックドメイン](#)の状態にあります。



原文の著作権・ライセンスは別添タグの通りですが、訳文は[クリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンス](#)のもとで利用できます。追加の条件が適用される場合があります。

す。詳細については[利用規約](#)を参照してください。

About this digital edition

This e-book comes from the online library [Wikisource](#)^[1]. This multilingual digital library, built by volunteers, is committed to developing a free accessible collection of publications of every kind: novels, poems, magazines, letters...

We distribute our books for free, starting from works not copyrighted or published under a free license. You are free to use our e-books for any purpose (including commercial exploitation), under the terms of the [Creative Commons Attribution-ShareAlike 3.0 Unported](#)^[2] license or, at your choice, those of the [GNU FDL](#)^[3].

Wikisource is constantly looking for new members. During the realization of this book, it's possible that we made some errors. You can report them at [this page](#)^[4].

The following users contributed to this book:

- CES1596
- Vanished user 9fc6831189f74d3556ecc64228ec08b7
- 庚寅五月
- Toki-ho
- Great Brightstar
- 村田ラジオ

- Aphaia
- Sakoppi
- 月野みずき
- P9iKC7B1SaKk
- Kwj2772
- Zscout370
- Rocket000
- Jdx
- Santoposmoderno
- Nightstallion
- Bangin
- Qrsk075
- Navian
- Boris23
- KABALINI
- Bromskloss
- Tene~commonswiki
- AzaToth
- Bender235
- PatríciaR
- Dbenbenn

-
1. [↑ https://wikisource.org](https://wikisource.org)
 2. [↑ https://www.creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0](https://www.creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0)
 3. [↑ https://www.gnu.org/copyleft/fdl.html](https://www.gnu.org/copyleft/fdl.html)
 4. [↑ https://wikisource.org/wiki/Wikisource:Scriptorium](https://wikisource.org/wiki/Wikisource:Scriptorium)